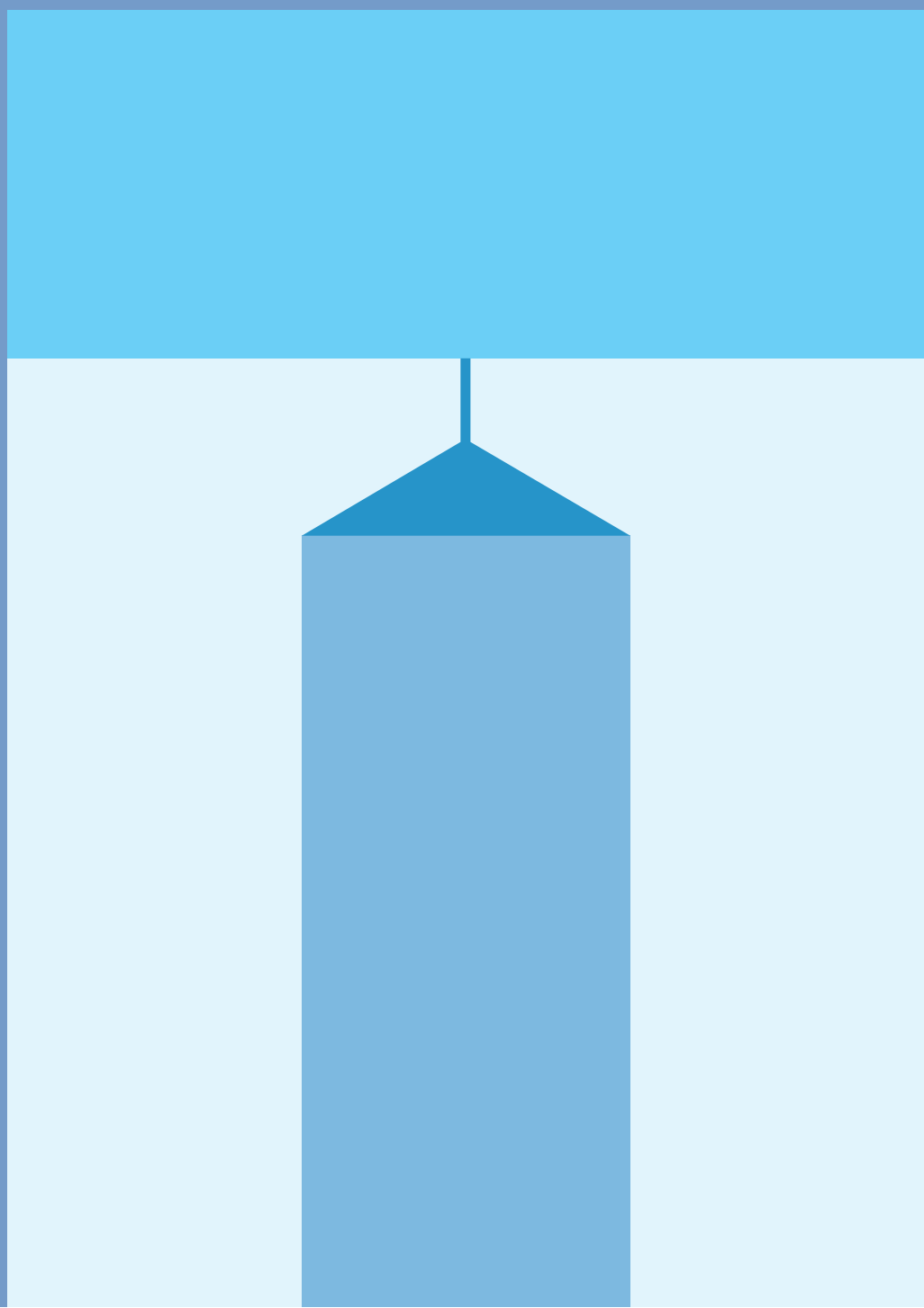


PLAN 2015

飲料用紙パックリサイクル行動計画

2011年4月

全国牛乳容器環境協議会



はじめに

私たちは、地球温暖化や資源枯渇、生物多様性、廃棄物の適正な処理など、様々な環境問題に直面しています。紙パックは環境に与える影響が小さい容器であるとしても、このような環境問題の解決にできる限りの貢献をしなければなりません。

全国牛乳容器環境協議会が加入している飲料用紙容器リサイクル協議会では、2006年3月に飲料用紙パックの3R推進のための自主行動計画を策定しました。その後、全国牛乳容器環境協議会は、環境負荷が少ない社会、一人ひとりが環境を考え行動する社会をめざす2010年を目標年度とした行動計画「プラン2010」を2007年に作成し、様々な活動を展開してきました。

プラン2010は、着実な回収率向上に加えて、紙パックのリサイクルに関わる環境教育貢献などを含めて、環境負荷削減に一定の成果を挙げることができました。しかし、回収率を50%以上に高めるとする数値目標の達成には至らない見通しです。

これらを受けて、この度、全国牛乳容器環境協議会は、2011年度以降の次期行動計画「プラン2015」を策定いたしました。プラン2015は、2011年度から2015年度までの5年間の中期計画であり、毎年の具体的な諸活動は本行動計画に基づいて実践します。

本行動計画が目指すものは、先の行動計画同様に「環境負荷が少ない社会、一人ひとりが環境を考え行動する社会」の形成です。そのための一つの柱である回収率50%以上への向上は、紙パックにとって決して容易なものではありませんが、これまで「プラン2010」を推進して明らかになった成果と課題を踏まえて、より効果の上がる活動を展開し、人や社会への環境保全意識の浸透と高揚をさらに図っていくことと致します。

目標達成に向けての活動は、全国牛乳容器環境協議会にとっての社会的責務であり、本行動計画はそのための社会的な説明責任でもあると認識しています。関係する皆さま方のご協力とご支援をお願い申し上げます。

2011年4月

全国牛乳容器環境協議会



全国牛乳**容器環境**協議会 = 「**容環協**」

「容環協」は、牛乳パックなど紙パックのリサイクルを促進している団体です。

目次

はじめに	1
------	---

I 現状認識 P4

1. 飲料用紙パックと暮らし	4
2. 紙パックの環境面からみた特徴	5
3. 紙パックのリサイクルの現状と特徴	6
4. プラン 2010 の成果と課題	10
4.1 プラン 2010 の成果	10
4.2 プラン 2010 の課題	12

II 行動計画の基本的事項 P14

1. 行動計画の目的	14
2. 行動計画の位置づけ	15
3. 行動計画の体系	15

III 行動計画 P16

1. 地域の回収力を高める場づくり	16
2. 家庭の紙パックの回収促進	18
2.1 回収のきっかけづくり	18
2.2 牛乳 1000ml 以外の回収促進	21
2.3 紙パックとしての分別の促進	21
2.4 家庭での再活用から資源価値の高い再生紙へ	22
3. 屋外や店舗で飲まれる紙パックの回収促進	23
4. 教育や学習の場における活動の促進	24
4.1 教育・学習とリサイクルの協調	24
4.2 学乳パックの回収率向上	25
5. リサイクルに向けたコミュニケーションの充実	26
5.1 再生品の利用促進	26
5.2 インターネットなどによるコミュニケーション	27
5.3 紙パックリサイクルを通じた国際的連携	28

IV 計画の実現に向けて P29

I 現状認識

1. 飲料用紙パックと暮らし
2. 紙パックの環境面からみた特徴
3. 紙パックのリサイクルの現状と特徴
4. プラン 2010 の成果と課題

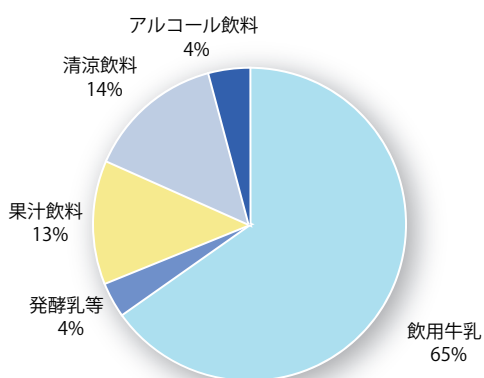
1. 飲料用紙パックと暮らし

家庭や学校、お店でも飲料用紙パック（以下「紙パック」）は広く生活に溶け込んでいます。なかでも、牛乳の容器は紙パックが 85% を占め、牛乳パックは紙パックを代表しているといってもいいでしょう。ただ牛乳容器だけでなく、他にもジュース容器の 35%、紅茶飲料容器の 27%、コーヒー飲料容器の 8% と、紙パックは清涼飲料容器類のカテゴリーでも存在感を示しています。

2010 年版の基本調査¹によれば、2009 年度では、数量約 91 億個、重量 20 万 6 千トンの紙パックが飲料用容器として使用されました。紙パックの中身飲料の量は、おおよそ 630 万キロリットルになります。また、1 人あたりの使用量でみれば、5 日で 1 パック、1 週間でおおよそ 1 リットル飲用されています。

1 人あたりの紙パック使用量（2009 年度）

	年間	1日あたり
重量	1.6kg	4.4g
数量	71パック	0.20パック
中身飲料の量	49リットル	135ml

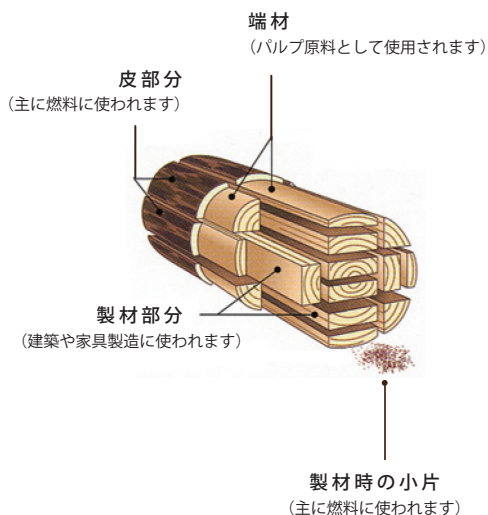


中身飲料別の飲料用紙パック使用重量比率
(2009年度)

中身飲料別では、牛乳が最も多く、3 分の 2 近くを占めています。牛乳以外では発酵乳や乳酸菌飲料、ジュース（果汁飲料）、コーヒー・紅茶・緑茶飲料といった清涼飲料、日本酒などのアルコール飲料に使われています。

¹ 全国牛乳容器環境協会/株式会社エコイブス「飲料用紙容器リサイクルの現状と動向に関する基本調査報告書《2009年度 紙パックリサイクルの実態》」

2. 紙パックの環境面からみた特徴



1) 再生可能な資源からつくられる紙パック

紙パックの原紙は、第三者機関が認定する森林認証を取得し適切に管理された森林からの資源を原料の大半としています。

採種・育苗・植林・育成・伐採などの一連の森林管理は、木だけではなく、土壌、水、あるいは他の動植物をふくめ、森林全体が共存・共生を続けることを目指しています。森林サイクルの周期は 50 年、100 年と永く、未来を視野に入れた究極のリサイクルとってよいでしょう。

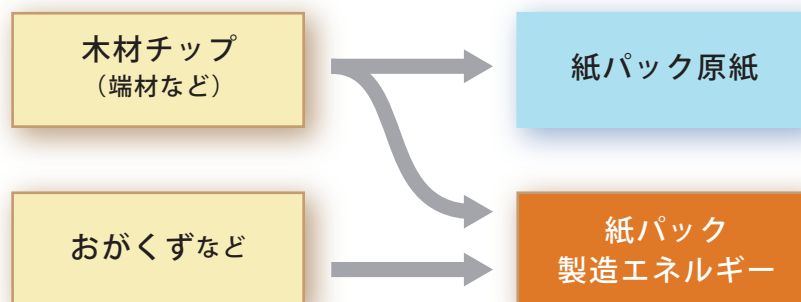
しかも、適切に管理された森林は、原生林の減少を食い止め、地球環境の負荷を減らすことに役立っており、CO₂の吸収、削減にも寄与しています。

また、紙パック原紙の原料は、主として間伐材や製材時に発生する残材、幹の上部や長い枝、外周部、木片など、製材として使用しないものが使われています。

2) バイオマス資源

製材に利用できない端材などは木材チップに加工され、繊維分は紙パックの原紙に、それ以外はおがくずなども含めて原紙を製造するための熱エネルギーとして使用されます。紙パックは木というバイオマス資源を最大限に活用して作られているのです。バイオマスの特徴は、再生可能であるとともに、燃焼しても大気中の CO₂ 濃度を上昇させることが基本的にないということです。紙パックはバイオマス資源をあますところなく使用することで、化石由来のエネルギーや資源の使用を低減し、地球温暖化を引き起こす原因の一つである CO₂ の削減に貢献しています。また、ライフ・サイクル・アセスメント (LCA) 調査²からは、1000ml の紙パックでは、製造や加工に必要な原材料のおおよそ 8 割以上、エネルギーでは約半分が再生可能なバイオマス資源を使用していることが分かっています。

紙パック製造に使用されるバイオマス資源



² 環境省請負調査/財団法人政策科学研究所
「平成16年度 容器包装ライフ・サイクル・アセスメントに係る調査事業報告書」

3) 小さい環境負荷

紙パックは、リターナブルびんなどと比較しても遜色のない、環境負荷の大変小さい容器です。環境問題に厳しいドイツでも、紙パックは環境負荷の小さい容器として認められています。

先の LCA 調査から CO₂ の数値を求めると、屋根型 1000ml の CO₂ 排出量は、リサイクルせずに廃棄しても 38.1g-CO₂ です。さらに、リサイクルすると発生する CO₂ は 14.7g-CO₂ で、23.4g-CO₂ が削減されたこととなります。これはほぼ家庭用エアコンを 1 時間使用した時の CO₂ 発生量の削減に相当します。

4) 良質な再生資源

紙パック原紙の原料は針葉樹のパルプであり、繊維が長く、良質な紙に再生できます。紙パックのリサイクルは、資源の有効活用と環境負荷削減の両方に効果を持ちます。

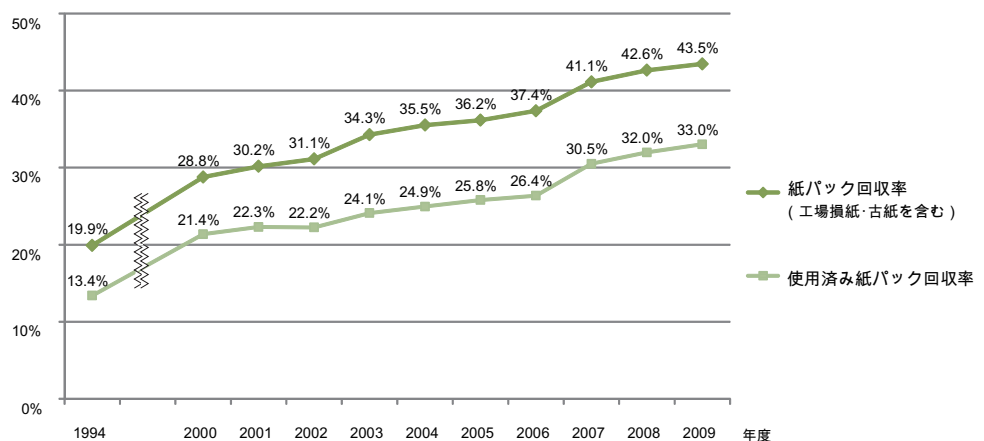
主な再生品はトイレットペーパーやティシュペーパーなどです。1000ml の紙パック約 5 枚で、トイレットペーパーを 1 ロール作ることができます。

3. 紙パックの リサイクルの現状 と特徴

1) 紙パックのリサイクルの現状

紙パックのリサイクルは、紙パックメーカーや飲料メーカーの工場損紙などからの回収と、市場に出た後の使用済み紙パックの回収の 2 つに分けられます。前者は、ほぼ全てリサイクルされています。後者は、年々増えてはいますが、未だ 3 分の 1 しか回収が把握されていません。

紙パック回収率の推移



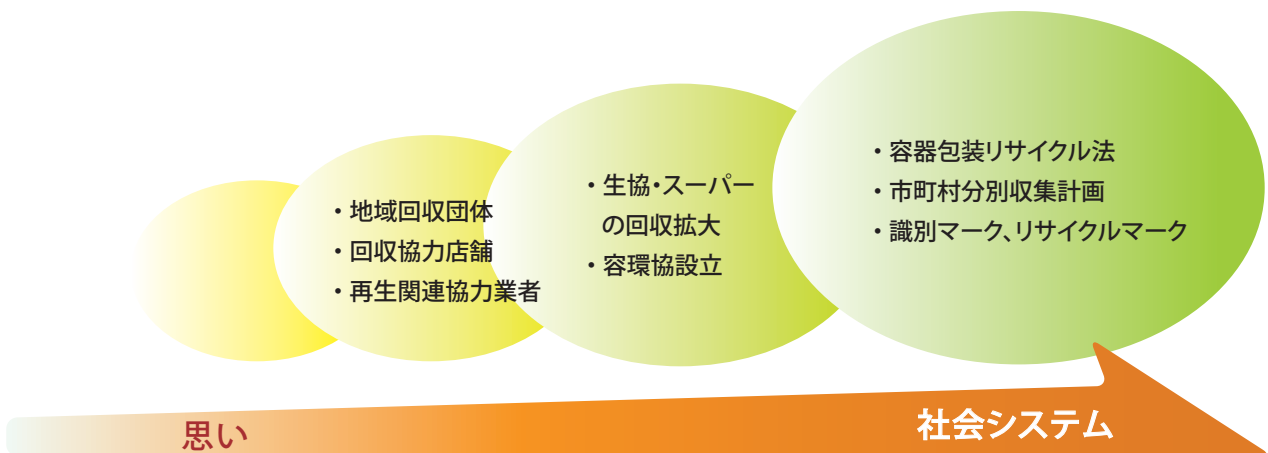
2) 紙パックのリサイクルの特徴

① 市民の思いから社会システムへ



全国パック連 初代代表平井初美さん(右)

紙パックのリサイクルは、1984年、子育てを考える主婦グループが使い捨て生活を見直し、子供達にももの大切さを伝えようとの思いから、牛乳パックの回収を始めたことをきっかけにして、市民によって始められ、社会システムにまで発展してきたことが大きな特徴です。現在のシステムも、市民の地道で主体的な行動に支えられており、自治体に加えてスーパーなどの店舗や地域集団といった民間が大きな役割を果たしています。

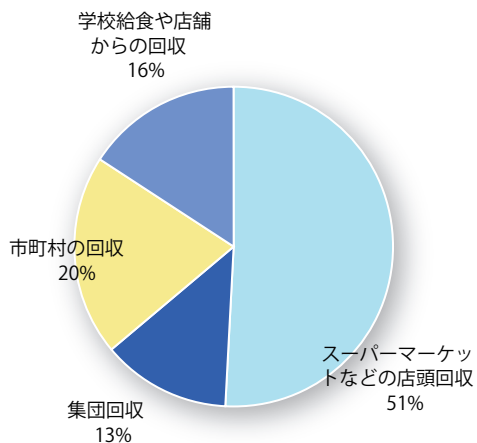


② ひと手間かけたリサイクル

どのようなリサイクルであれ市民の協力が不可欠です。その中でも紙パックは、市民に「洗って、開いて、乾かして」から回収場所に出すことを求めています。

紙パックのリサイクルは、一人ひとりの意識と行動が前提です。一見、非効率に思える行動を通して、リサイクルする人々や関係者は、紙パックのリサイクルによる直接的な環境負荷削減だけではなく、多くのことを学ぶことができます。紙パックのリサイクルが、さらなる環境保護活動に取り組む助けにもなっています。

飲み終わった紙パックの
リサイクルルート別回収量の比率 (2009年度)



③多様な回収チャネルと役割分担

使用済みの紙パックは、店頭回収をはじめとして、様々な回収ルートで集められ、それぞれのルートが独自の役割を担っています。

最も回収量が多いのは、牛乳パックのリサイクルが開始された当初から続いているスーパーマーケットなどの店頭回収です。多忙なスーパーマーケットの人々の貴重な時間や保管場所を提供してもらうことで牛乳パックのリサイクルは成長してきました。スーパーマーケットなどの店頭回収は、今でも使用済み紙パックの半分以上を集めている回収ルートです。

集団回収も紙パックの主要回収ルートの一つです。牛乳パックリサイクルを立ち上げた当時の回収は、思いを共有した多くの市民グループが牛乳パックの回収に深く関わりました。また、福祉作業所などの団体も紙すきなどを含めてリサイクルに協力しました。今でもこのような人々が直接的・間接的に紙パックなどのリサイクル活動に関わっています。

それぞれの回収ルートは、互いに関連しており、集団回収と市町村回収でいえば、その両方の回収を実施している自治体は、どちらか一方しか実施していない自治体と比較して 1 人あたりの回収量が多くなっています。同様に、市町村による回収の実施は、市民をリサイクル行動に向かわせるきっかけになるなど、大きな働きをしています。

④収集・選別システムの特徴

紙パックは、紙の両面にポリエチレンを使用しているので他の古紙と一緒にではリサイクルが難しくなります。紙パックをいかに効率的に回収するかが紙パックリサイクルの重要な課題です。だからこそ市民による最初の分別がとても重要です。

紙パックの分別を、異なる容器を一括して集めるような混合回収で行うことは不適切です。市民が自らの手で分別することで、効率的で、機械選別と違い選別もれもなく、そのように回収された紙パックはごみになることもありません。

そのことが 1995 年の容器包装リサイクル法制定で飲料用紙パックとして新たに古紙の分別区分となり、さらに価値を生み出しています。



⑤地域による回収率の差

全国の回収状況を地域的に見ると回収率に大きな差があります。また、政令指定都市などの大都市と一般市でも違いが見られます。地域的な回収率の差は、リサイクルが始まった当初に、紙パックを扱う古紙問屋や再生紙メーカーが地域的に限られていたことが背景にあるのかもしれませんが、今では紙パックを回収している古紙問屋や再生紙メーカーは、全国に広がってきています。今では、どの地域でも回収できるようになっていますが、回収率の向上に結び付いているかどうかは課題となっています。

3) 市民からの視点

全国牛乳容器環境協議会（容環協）では、どうしたら使用済みの紙パックの回収率を高めることができるのかを調査しています。これまで2回にわたる市民を対象としたWeb調査からは、次のことがわかりました。

- *スーパーマーケットやコンビニエンスストアなどで買われる紙パック入り飲料のうち約8%は、屋外で飲まれている。
- *特に、コンビニで買われた紙パック入り清涼飲料500mlは、半分以上が屋外で消費されている。
- *家庭では、牛乳1000mlなどの紙パックの20%以上が台所などで再活用されている。
- *容器サイズでは、1000mlの方が500mlよりもリサイクルされる比率が高い。
- *牛乳パックは、清涼飲料の紙パックよりもリサイクルされる比率が高い。
- *缶やペットボトルの飲料容器をリサイクルしたことがある人に比べて、紙パックをリサイクルしたことがある人は少ない。
- *紙パック入り飲料を多く買っている家庭ほどリサイクルする。
- *時どきでリサイクルしたりしなかったりする人も多い。
- *紙パックを雑誌・雑がみ類などの他の古紙に混ぜて排出する家庭が約10%ある。
- *リサイクル行動を起こすきっかけとしては、自治体の分別回収やスーパーマーケットの店頭回収の開始など、目に見える状況にあることが大きな要因になる。
- *男性は、市町村回収に出す比率が女性よりも高い。

4. プラン 2010 の成果と課題

容環協は、プラン 2010 に沿って、紙パックのリサイクルの促進活動を展開してきました。

4.1 プラン 2010 の成果

行動計画の諸活動は、全国牛乳パックの再利用を考える連絡会（全国パック連）との協働事業が概ね順調に進んだこともあって、効果的な活動推進により次のような成果を挙げることができました。

（1）家庭系紙パックの回収率向上

最もウエートの高い家庭系を主要な対象として、全国各地で牛乳パックリサイクル促進地域会議やリサイクル講習会を開催してきました。また回収のきっかけづくりとしての回収ボックスの提供は、2010 年度までに 1 万 9 千カ所以上に実施してきました。

その他、毎年環境キャンペーン、エコプロダクツ展、乳業工場見学など、多くの人たちとふれあいながら、多様な活動を展開してきたことは、回収率向上につながる大きな成果と認識しています。



地域会議



回収ボックスの提供



エコプロダクツ展

（2）教育・学習とリサイクルの協調

容環協では、これからの持続可能な社会を担う子どもたちに対し、全国パック連との協働事業として、牛乳パックの環境特性やリサイクル、資源の大切さ、森林管理を中心とした様々な啓発活動を展開してきました。たとえば、全国の小学校の児童などを対象とした出前授業の開催、環境教育用ホームページ「牛乳パックン探検隊」の充実、子供向けに紙パックの環境特性やリサイクルを紹介する DVD の作成などです。これらにより紙パックのリサイクルを環境教育の素材と



DVD『牛乳パック探検隊』



出前授業



出前授業での紙すき

して定着させることができました。

特に出前授業は教育現場で資源を大切にすることの意味を、手すきはがき作りを体験しながら学ぶこともあって効果的で、児童や教師からも高い評価を得ています。また、韓国でも導入が決定されるなど大きな拡がりを示しつつあります。

紙パックを通じての環境教育の浸透は、プラン 2010 の大きな成果と言えます。また、学校給食牛乳用紙パック（学乳パック）の回収率は 2006 年度の 70%から 80%近くまで向上しました。

（3）店舗などで使用される紙パックの回収促進

学乳パック以外の事業系紙パックの回収を促進する活動では、外食チェーンへの働きかけの結果、店舗で使用される紙パックの回収が始まりました。

（4）よりよいコミュニケーションに向けた情報の整備

毎年の年次報告書の作成のほか、2009 年には、紙パックやわが国の牛乳パックリサイクルの歴史、環境特性など紙パックの全てが分かる『紙パック宣言』の出版、各地の様々な回収の取り組みを紹介した『牛乳パックリサイクル全国 20 事例集』の制作、そしてホームページの充実など紙パックのリサイクルに向けた情報の社会への幅広い発信、毎年度の紙パックリサイクルの現状と動向に関する基本調査や Web アンケート調査などを通じて、市民の意識・行動の把握と活動への反映を図りました。



4.2 プラン 2010 の課題

(1) 目標とした回収率の未達成

プラン 2010 の活動を通して、紙パックの回収率は着実に伸びてきましたが、目標とした 50% には達しない見通しです。プラン 2010 では紙パック全体量の 75% を占める家庭系紙パックの回収を最も重要と位置付けました。

回収率を 50% 以上にするためには、家庭系紙パックの回収率を大幅に引き上げ、40% 以上にする必要があります。しかし、毎年の上昇は果たしましたが目標とする回収率に届くほどの成果には至りませんでした。

(2) 活動体制とネットワークに関する課題

容環協では、地域ごとの関係主体との協議の場である地域会議、および直接市民に対する啓発をめざすリサイクル講習会の活動は、ともに家庭系の回収率向上を図る上で重要な活動と位置付け、成果を挙げました。一方で、大幅な回収率向上を目指すにはいくつかの反省点をもたらしました。最も大きな点は、限られた人々を中心とする方法では、成果も限られるという点でした。地域会議については、会議に向けて、地域の状況や課題の事前把握が不十分であったり、実施後のフォローアップが不足するなど、回収率向上に結び付けるにはいっそうきめ細かな対応を行うことが必要と考えられます。企画段階からの十分な準備、事後の展開、支援につながるフォローアップの充実が重要です。また、これらの会議や講習会において、より多くの人々の知恵や協力を得ることができていれば、さらに裾野広く活動が浸透していったと考えられます。地域での紙パックリサイクルを進める上ではそれぞれの地域の担い手の発掘やその育成支援といった、地域に根差した活動体制面の充実がこれからの活動に求められています。

(3) 顕在化した新たな課題

2010 年の Web 調査によれば、牛乳・清涼飲料などの 1000ml、500ml の紙パックが家庭で再活用される割合は図 (p13) に示すように 20% 台に達しています。家庭の再活用 (リユース) もリサイクルもそのままごみにしたら「もったいない」という気持ちの現れで、資源の「有効活用」ですので、根は同じです。再活用は、他の容器にはまねが出来ないほど多種・多様な活用方法があるのが紙パックの特徴であり、家庭で一般的に活用され、親しまれている証拠ともいえるでしょう。ただ、再活用よりも紙として再生した方が資源としての有効活用度は概して高いと思われます。問題は紙パックが再活用された後、紙パックとしての回収に回らず、その他の古紙に混ぜて排出されたり、ごみになってしまうという問題があります。

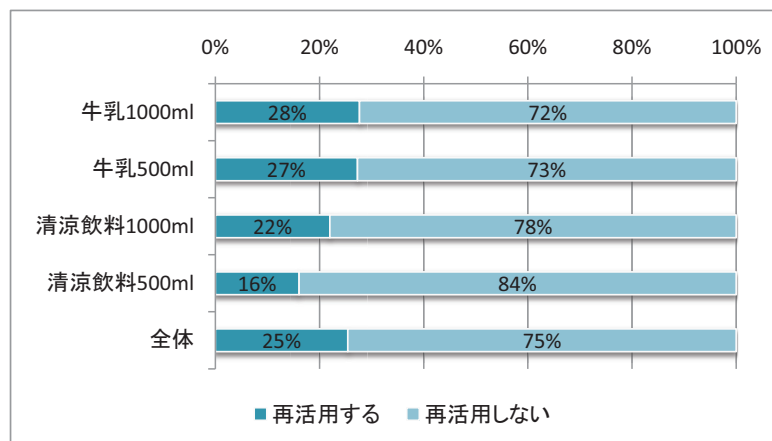
また、同じ調査の中で、紙パックをその他の古紙に混ぜて排出している家庭が多くありました。他の古紙に混ぜてしまうと紙パックはポリエチレンをコーティングしてあるので再生を困難にしたり、折角良質なパルプで資源としての価値が高いにも拘らずその資源価値を十分に生かし切れ

ません。

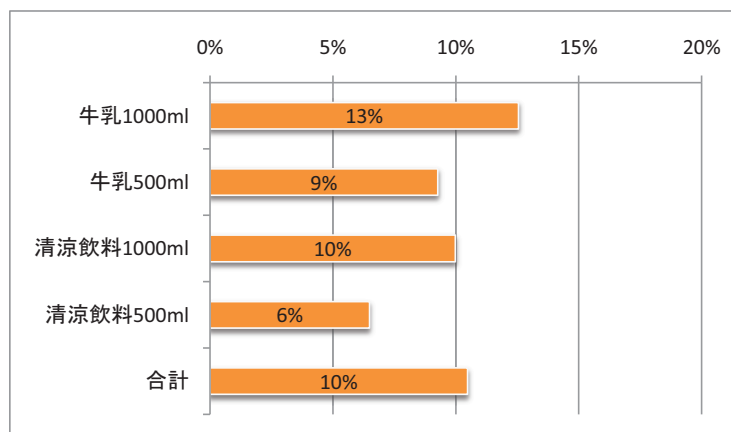
もちろん、紙パックとして単独で分別回収できていれば、紙パックとして回収量に算入されるので回収率はかなり向上することにもつながります。

家庭系の紙パックの回収率を大幅に引き上げていくには、このような新たな課題にも対応していく必要があります。

家庭の台所などでの紙パック再活用比率(2010年Web調査)



飲み終わった紙パックの他の古紙への混入比率(2010年Web調査)



(4) 計画の評価と進め方に関する課題

本計画では、行動計画の3つの目的を満足するため、毎年の活動をPDCAサイクルによって、活動がより有効に働くよう見直しを図ってきています。活動実績が評価されている一方で、活動の成果としての回収率向上に必ずしもつながらず、効果を十分発揮できなかった点に鑑みて、今後このPDCAサイクルにおける評価と見直しを回収率向上目標につながるよういっそう強化していくことが重要となります。

Ⅱ

行動計画の 基本的事項

1. 行動計画の目的
2. 行動計画の位置づけ
3. 行動計画の体系

1. 行動計画の目的

環境負荷が少ない社会、
一人ひとりが環境を考え行動する社会の実現に向けて、
本行動計画の目的を次のように定めます。

●紙パックの回収率を高める

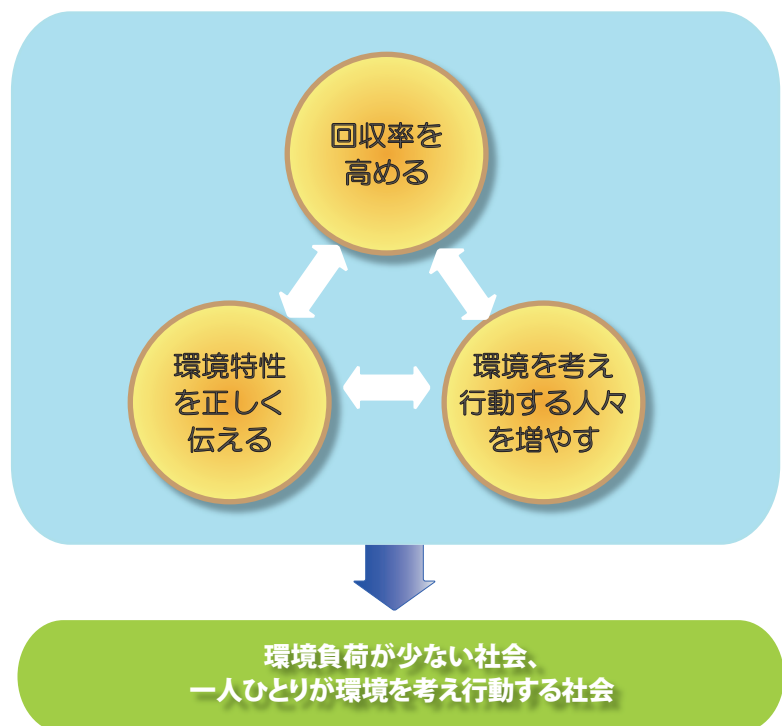
2015年度までに回収率を50%以上に高め、
紙パックのリサイクルを推進することで環境負荷をさらに削減する。

●紙パックの環境特性を正しく伝える

紙パックの回収率向上活動とあわせて、
環境負荷が少ない紙パックの環境特性を社会に正しく伝える。

●環境を考え、行動する人々を増やす

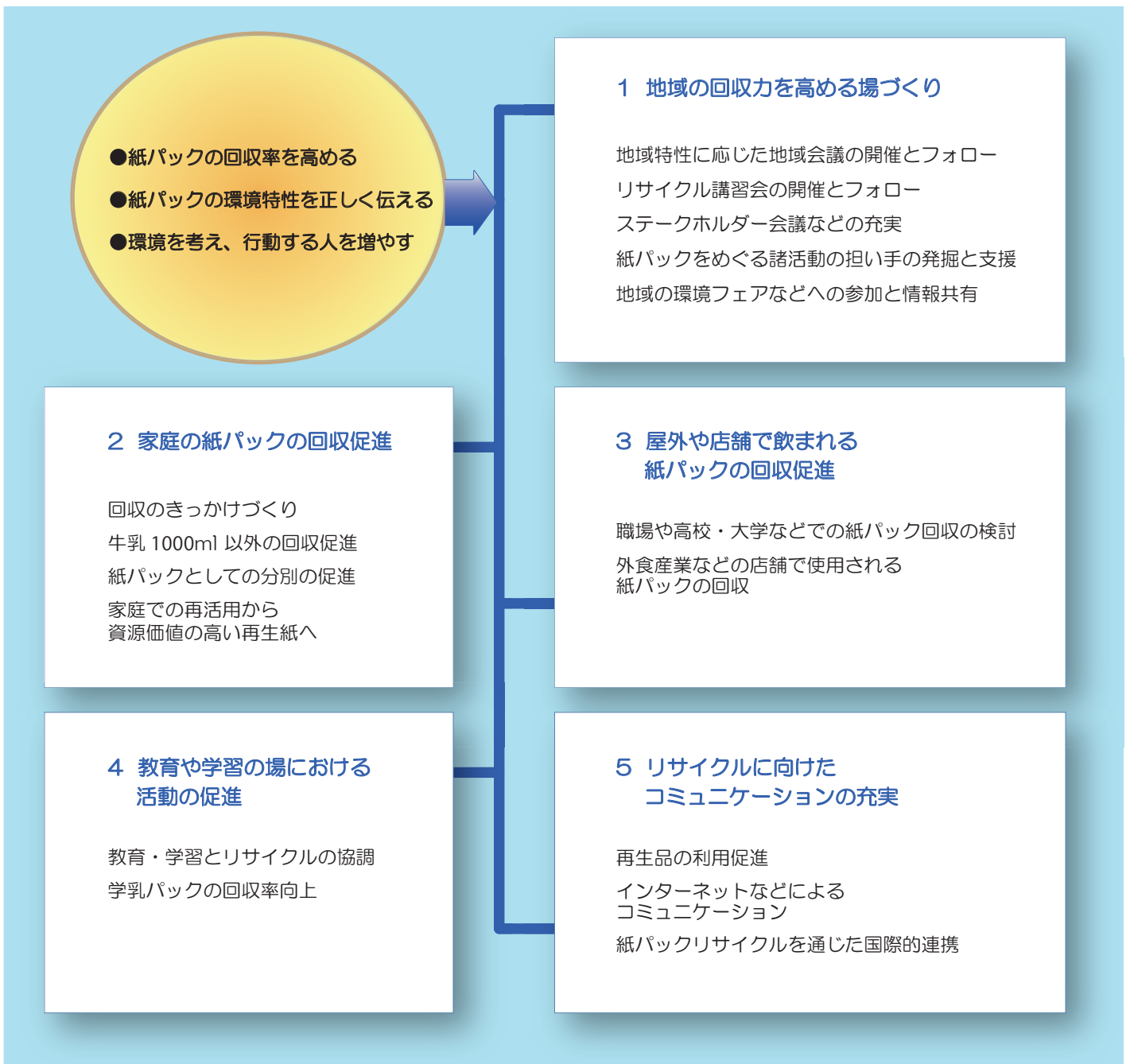
紙パックの回収率向上活動を通して、
資源や環境を考え、行動する人々を増やす。



2. 行動計画の位置づけ

- ・本行動計画は、プラン 2010 を総括し、2011 年度から 2015 年度までの 5 年間の中期計画として策定します。
- ・毎年度の活動は、本行動計画による事業計画に基づきます。
- ・行動計画は毎年精査し必要な見直しを行います。

3. 行動計画の体系



Ⅲ 行動計画

1. 地域の回収力を高める場づくり
2. 家庭の紙パックの回収促進
3. 屋外や店舗で飲まれる紙パックの回収促進
4. 教育や学習の場における活動の促進
5. リサイクルに向けたコミュニケーションの充実

1. 地域の回収力を高める場づくり

行動の背景

どのような活動であれ、最も重要なものは、人と人とのつながりです。紙パックの回収活動も同じです。活動する人がいて、共感する人々のつながりができて、紙パックの回収は始まり、拡がりました。人と人との直接の対話は、とても強いコミュニケーションです。お互いの話し合いは、新たな学びを得て、紙パックの価値を知らしめ、ひいては回収を促進していきます。

また、紙パックの回収は多くを地域の人々の活動に依存しています。回収業者や古紙問屋、再生紙メーカー、そこに住む人々、市町村などの自治体、企業や学校などの事業者などは多種多様です。また回収の風土なども地域ごとに異なります。結果として、回収活動が活発な地域とそうでない地域、店頭回収が強い地域、市町村回収が強い地域、学校給食からの紙パック回収が盛んな地域など一様ではありません。このため、紙パックの回収活動について、地域ごとに関係する人々による情報交換、話し合いの場が大変重要となります。

容環協では、これまでも地域会議の開催などを通して、地域ごとに協議の場を設けてきました。今後も、家庭からの紙パック回収をはじめとする課題に対して、それぞれの地域で人と人とのつながりを大切にして具体的な解決策に結びつけていく場づくりに注力していきます。さらには、回収力向上の活動を通して地域の担い手を発掘し、啓発活動に参加してもらいながら、地域での活動を担ってもらえるよう支援を強化します。

地域会議などにおいては、開催地域の回収力が向上する効果が得られるかどうかを第一義とし、事前に開催地域の状況把握や課題の分析などを十分行った上で目的・目標を明確にして会議を開催する、また、地域での課題解決に向けた具体的な活動につなげられるようにフォローしていくこととします。

行動目標

家庭からの紙パックの回収促進をはじめとして、地域の関係者が集まり、事前の開催準備を含めた状況把握、課題発見、問題解決、担い手発掘などに向けた話し合いの場づくりを進めるとともに、具体的な活動の方向をまとめ、その後の適切なフォローを行う。

行動計画

①地域特性に応じた地域会議の開催とフォロー

地域ごとに様々な事情があることから、開催前に地域関係者からの事前調査などを実施して状況把握に努め、効果的な地域会議の開催をめざす一方、開催後のフォローを強化し、その後の地域での成果の発揮につなげる。

重点事業

効果の高い開催地域を特定した地域会議を開催する。事前準備や実施後フォローを強化し、特に家庭系の回収率向上に向けた地域関係者との具体的協議や効果的対策の実現につなげる。

②リサイクル講習会の開催とフォロー

家庭系の回収率向上に向けて、地域住民に対する効果的な啓発を行うことを目的に、行政との連携のもとにリサイクル講習会を開催し、適切なフォローを行う。

重点事業

リサイクル講習会を開催する。

③ステークホルダー会議などの充実

リサイクルの推進に取り組む過程などにおいて生じてくる課題・問題点に対して、関係者間での適切な情報の共有や円滑な話し合いが重要となる。関係者間の情報交換の場を設定し、地域の課題やリサイクル推進の障壁を解決する糸口とする。各関係者がいっそう戦略的なリサイクルを促進できるよう支援の強化につなげていく。

重点事業

地域やリサイクル過程において生じている諸課題に対して、関係する市民団体、自治体、学乳関係者、再生事業者、回収業者などのステークホルダーとの協議の場を積極的に設けて、解決に向けた支援を行う。



④紙パックをめぐる諸活動の担い手の発掘と支援

様々な場における出会いを通して、事業者を中心に自治体、市民団体などの中から、地域の紙パックリサイクルに関わる、新たな担い手を発掘し、地域の各種啓発活動などを通じて、地域のリーダーとして活動できるよう支援し、啓発活動のネットワークの広がりをめざしていく。

重点事業

地域での啓発活動などの担い手を発掘し、その支援を強化する。

⑤地域の環境フェアなどへの参加と情報共有

国や自治体、市民団体、企業などが開催する環境フェアなどに積極的に参加し、地域との関係を強化する。同時に地域の回収力向上につながる地域情報の収集に努める。地域の関係者にその地域の紙パックリサイクル事情や地域の特性を踏まえた情報提供を行い、地域の回収力向上につなげる。

2. 家庭の紙パックの回収促進

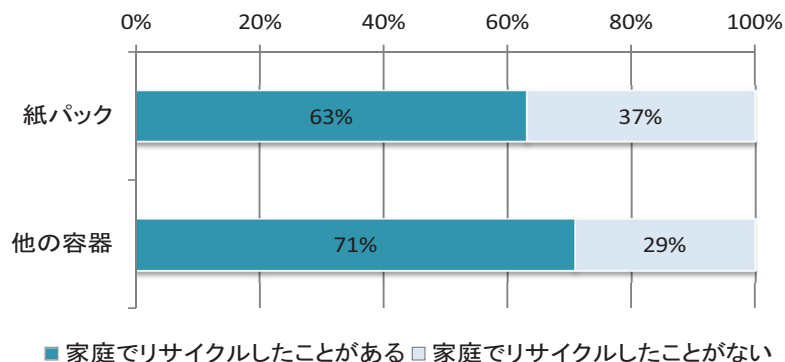
2.1 回収のきっかけづくり

行動の背景

紙パック入り飲料の8割以上が家庭で消費され、紙パック容器は家庭から排出されます。しかし、家庭から紙パックとして分別排出されたものの回収率は着実に増えていますが、それでもまだ約33%（2009年度）しか回収されていません。回収率を大きく向上させるには家庭からの回収を増やすことが最も重要な課題です。

これまで分別排出をしてこなかった家庭からの回収を増やすためには、分別排出の経験があってもやめてしまった人や、少ししか出ないからといって分別排出しない人たちなどを含めて、より有効な分別排出行動を起こすための気づきやきっかけづくりがあることが重要です。市民にとってより利便性の高い回収システムやルールを検討していくことも重要です。

紙パックと他の容器のリサイクル経験率の違い（2006年Web調査）



行動目標

市民に分別排出活動のチャレンジや、再チャレンジのきっかけを提供するとともに、より市民が排出しやすいシステムを検討する。

行動計画

①目に見えるきっかけづくり

分別排出のきっかけは「目に見えるもの」が有効であり、市町村の分別回収・拠点回収、スーパーマーケットなどの店頭回収などを促進し、知ったり、気づいたりするチャンスを拡大する。

②環境キャンペーンの拡充

毎年6月の環境月間と10月の3R月間に紙パック容器の側面の広告欄を活用し、牛乳パックリサイクルを啓発、促進する環境メッセージの掲載を実施している。これを拡充し、可能な限り常時環境メッセージの掲載を実施するようにする。さらに、牛乳以外の紙パックについても環境メッセージの掲載を実施する。

重点事業

牛乳パックやその他の飲料用紙パックを対象に環境キャンペーンの掲載を展開し、環境キャンペーンの掲載紙パックの延べ数量を年間1億個以上とする。

③識別マークに加えて標語と展開図の付記

飲料用紙パックの識別マークに標語や展開図を加えることで、環境キャンペーンとの連動を促進する。また、引き続き識別マークへの「洗って開いてリサイクル」の標語の併記を推奨していく。

表示例

紙パック側面に、識別表示を行います。



識別マーク

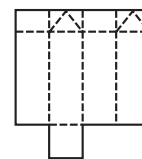


識別マーク+標語



展開図

- ① 洗って
- ② 開いて
- ③ 乾かして



※ 飲料用紙容器リサイクル協議会制定 (2006年6月改定)

④紙パック回収ボックスの提供

目に見える回収のきっかけづくりの一環として、紙パック回収ボックスの提供を継続する。また提供先・設置先に見合った回収ボックスを検討するなど、より活用されやすい提供をめざす。

重点事業

適所適材の回収ボックスを提供する。



⑤エコプロダクツ展などへの積極参加と有効活用

エコプロダクツ展は、日本最大の一般者向けの環境展示会であり、2010年は18万人以上が来場し、年々来場者数は増加している。また、小中学生による社会科見学や子供を連れた家族も多く、2010年には約2万人の小中学生が来場している。このような環境フェアへの参加を通じて家庭系の紙パットの分別排出の実施を行うことにつなげていくことが重要である。

重点事業

エコプロダクツ展へ参加し、家庭系の紙パットの回収促進の場として最大限有効活用する。



⑥乳業メーカーなどにおける啓発

乳業メーカーの工場見学者及び同家族を対象に、紙パットリサイクル活動の啓発を行う。また、会員各社をはじめとして、工場主催イベント（工場祭り、料理講習会など）で紙パット回収のPR活動を推進する。

重点事業

工場見学や主催イベントなどで紙パットリサイクルの啓発を行う。そのための素材提供やアイデア・ノウハウなどを蓄積し、活用する。

⑦モデル地域における回収活動

紙パット回収促進のモデル地域を定め、回収実態を調査分析するとともに、具体的な回収促進活動を試行し、活動の効果測定などを通じて、活動成果の検証を行うことを検討する。

⑧市民の利便性を考えた回収システムの促進

少量の紙パットでも回収できるよう、市町村などに収集方式や広報の変更を働きかける。市民に対しては、少量でも回収する意義があることを伝達する。また、市民の排出の利便性について検討する。

⑨他のリサイクル団体などとの協働活動

他のリサイクル促進機関、業界団体などと協働し、家庭系紙パットリサイクル、分別排出のきっかけづくりの活動に努める。

2.2 牛乳 1000ml 以外の回収促進

行動の背景

牛乳 1000ml に比べて、牛乳 500ml や清涼飲料の紙パックは回収率が低いという調査結果があります。これらの紙パックも牛乳 1000ml の紙パック同様にリサイクルできます。これらはどれも同じ紙パック原紙を使用しており、再生紙原料としての違いはありません。

行動目標

牛乳 500ml や清涼飲料、小型容器の回収を促進する。

行動計画

①牛乳 1000ml 以外の回収の啓発

市町村や市民などに、500ml 以上の紙パックはどれも同じであり、1000ml と同様にリサイクルできることを伝える。

②小型容器のリサイクル

200ml などの小型容器は、回収業者や古紙問屋と協力しながら適切なリサイクルができるように努める。

2.3 紙パックとしての分別の促進

行動の背景

紙パックは質の高い資源であっても、他の紙資源と一緒に資源化してしまうと質の高い再生品には生まれ変わりません。現在、「洗って、開いて、乾かして」いながらも他の古紙に混ぜて家庭から排出される紙パックがあります。紙パックは紙パックとして排出し、資源化するようにしていくことが紙パックの資源価値からみて重要です。

行動目標

紙パックは紙パックとして分別排出、分別回収し、資源価値を維持して資源化することを徹底する。

行動計画

①資源としての紙パックの分別排出の啓発活動

一般家庭に向けて、紙パックは紙パックとして分別排出することが資源価値を高めることにつながることを伝え、紙パックを分別して排出するように様々なメディアを通して啓発していく。

②関係者に対する紙パックとしての分別回収の要請

市町村や古紙関係団体などの関係者に紙パックは紙パックとして分別回収することが資源価値上望ましいことを情報提供し、要請する。

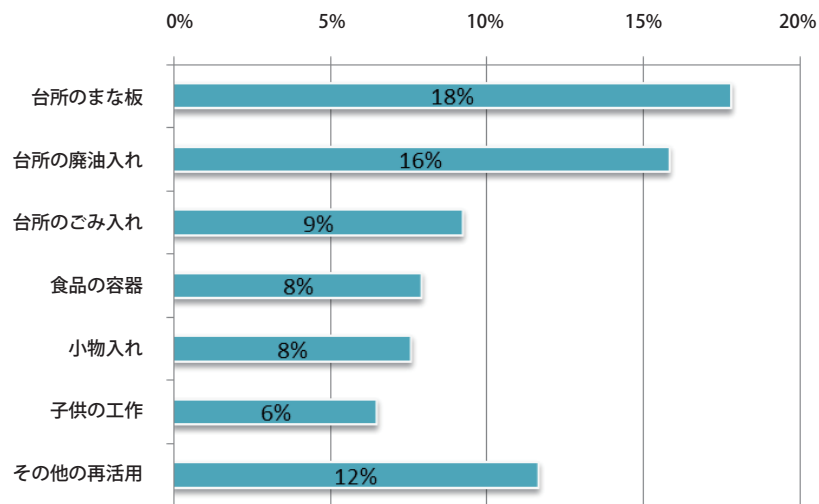
2.4 家庭での再活用から資源価値の高い再生紙へ

行動の背景

家庭では、台所などで約四分の一がまな板や小物入れなど様々に利用されています（2010年度 Web 調査）。これらの再活用によって資源に出せなくなる紙パックもあります。ただ、家庭の再活用も資源回収も「もったいない」、「有効活用」ということでは根は同じです。再活用する家庭は、家庭内でリユースをしているともいえます。紙パックにとって、家庭の再活用は他の容器にはまねができない誇れることです。

ただ、紙パックはとても良質な紙なので、例えば台所のごみ入れにするのは「もったいない」ということ。つまり概して再生紙にする方が資源の有効利用になることや、再活用した後でも汚れがひどくない紙パックは資源回収に出すように伝えていくことも必要です。

牛乳1000mlパックの再活用の方法－複数回答（2010年web調査）



行動目標

市民の紙パックの再活用を紙パックの分別排出、分別回収につなげていく。

行動計画

ものを大切にする家庭を増やし、紙パックの回収につなげる。

紙パックの様々な再活用の紹介を通して、紙パックの良さを伝えながら、ものを大切にする家庭を増やし、紙パックの再活用後の分別排出の仕方を啓発し、回収につながるよう情報提供する。

3. 屋外や店舗で飲まれる紙パックの回収促進

行動の背景

紙パック飲料は一般市民がスーパーマーケットやコンビニエンスストアで購入したのも、家庭ではなく、職場や、高校・大学などの学校、屋外で少なからず飲まれています。これらの紙パックを回収していくことを検討する必要があります。

スーパーなどで購入される紙パックの屋外消費量(2010年Web調査)

	家庭系重量 (千トン)	屋外消費比率	屋外消費重量 (千トン)
牛乳 1000ml	95	1%	1.0
牛乳 500ml	13	19%	2.5
清涼飲料 1000ml	37	9%	3.2
清涼飲料 500ml	11	56%	6.2
合計	157	----	12.9

また、紙パック飲料は店舗や自販機などでも販売され、同様に学校や職場、屋外で飲まれています。これらのうち、すでに一部で回収が始められており、これらの回収活動を拡大していくことが求められています。

行動目標

屋外や店舗で飲まれている紙パックの回収を拡大する。

行動計画

①職場や高校・大学などでの紙パック回収の検討

職場や高校・大学の学校などで飲まれた紙パックの回収方法を検討し、回収の取り組みに努める。

②外食産業などの店舗で使用される紙パックの回収

外食産業で始められた紙パック回収が継続するよう、ノウハウの提供をはじめとする必要な支援を行いながら回収活動を拡げていく。また、モデルとなる回収事例を広く紹介できるよう努める。

4. 教育や学習の場における活動の促進

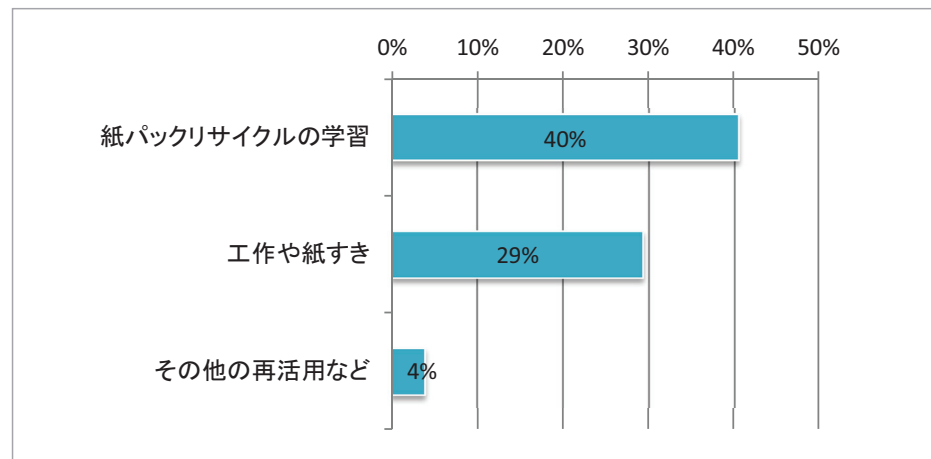
4.1 教育・学習とリサイクルの協調

行動の背景

紙パックのリサイクル運動は、子どもたちへの教育や学習を考えるとこころから始まりました。現在も環境教育の一環として、多くの小学校などで紙パックリサイクル学習や、紙すき・工作などが行われています。これらの活動を、さらに充実・強化していくことが紙パックリサイクル推進にとって、もう一つの使命と考えます。

さらに、学校は地域コミュニティの重要な核であり、教育や学習の場を中心とした回収活動を充実することが求められます。加えて、市町村などが取り組む社会教育の一環に紙パックのリサイクル講座が取り入れられることも課題です。

小学校における紙パックリサイクルを活用した教育の実施状況(2009年度)



行動目標

紙パックのリサイクルを活用した教育・学習と、回収促進活動を連動させながら、学校や地域社会とともに進めていく。

行動計画

①紙パックリサイクルを通じた環境教育・学習の推進

牛乳パックリサイクル出前授業を全国パック連と共催するとともに、容環協や紙パックメーカー、乳業メーカーによる出前授業の検討や、各事業者による様々なメディアを通じた環境教育を検討する。



重点事業

全国パック連と協働して牛乳パックリサイクル出前授業を推進して、環境を考えて行動する人を増やし回収率の向上につなげていく。

②紙パックリサイクルを活用した学校の課外活動などへの協力

紙パックリサイクルを活用した学校の課外活動などで、紙パックのリサイクルや環境特性が伝わるよう啓発活動に努め、環境を考えて行動する人を増やし、回収率向上につなげる。

③学校を核とした回収力の強化

学校を核とした地域コミュニティによる回収を促進する。学乳パックの回収率を高めることや、家庭で使用した紙パックを学校で集めるシステムの増強とともに、学校や子どもたちから家庭への紙パック回収活動のフィードバックが働くように努め、地域の回収力向上を図る。

④学校の環境イベントなどへの参画

学校が主催する環境イベントなどにおいて、紙パックのリサイクル活動の意義を伝達する。また、様々な学習・教育機関で紙パックのリサイクル講座などの開催を支援できるよう検討し、回収率向上につなげる。



4.2 学乳パックの回収率向上

行動の背景

学乳パックは、関係する主体の努力の結果、最近になってリサイクルに向けた排出の動きが急速に拡大してきました。教育という観点からもこのリサイクルの動きは重要と考えます。給食時間が短いなど、実施当初は様々な教育現場での心配事が挙げられますが、実施してみると、大きな問題もなく進んでいる学校がほとんどです。現在、すでに8割近い学校がリサイクルに向けた排出をしていると想定されますが、教育的見地からもさらに高めていくことが必要です。

行動目標

学乳パックのリサイクルに向けた排出をさらに拡大し、回収率向上につなげる。

行動計画

①学乳パック関係者との連携強化

国や地方自治体の学校給食関係部門との連携を強化する。特に、地方における乳業メーカーと行政との連携強化の支援を図る。

②効率的な学乳パックのリサイクルシステムについての情報提供

未実施校中心に、効率的な学乳パックのリサイクルシステムに関わるビデオ、事例集、リーフレットなどを通じて情報提供することによりリサイクルに向けた動きを促進、支援する。

5. リサイクルに向けたコミュニケーションの充実

5.1 再生品の利用促進

行動の背景

リサイクルは再生品が使われることによって完結します。紙パックの再生や再生品の利用拡大をこれまで以上に促進していく必要があります。

紙パックを原料とした製品の中には、「牛乳パック再利用マーク」(パックマーク)が付けられているものもあります。同マークがこれまで以上に普及し、効果を発揮するように、関係機関に働きかけていくことが必要です。

行動目標

紙パックの再生品の利用拡大を促進する。

行動計画

①再生品の率先利用

紙パック再生品を率先して使用するとともに、その使用を幅広く呼びかける。

②紙パック再生品の展示

紙パックがどのような再生品に生まれ変わるか再生品を紹介する。また、紙パックが再生品に生まれ変わる過程を展示用パネルなどで紹介できるよう整備するとともに、ホームページなどで情報提供する。

③牛乳パック再利用マークの普及促進

牛乳パック再利用マークのさらなる普及のために、マークつき商品の率先した使用や関係者へのマークつき商品の購買協力を呼びかけ、情報提供などに努める。



5.2 インターネットなどによるコミュニケーション

行動の背景

インターネットによる情報提供やコミュニケーションは、社会でますます大きな役割を果たすようになってきました。容環協では、ホームページを通して、紙パックの資源価値や回収活動の促進などを展開してきました。子ども向けのホームページである「牛乳パックン探検隊」も開設し、多くの子どもたちからのアクセスがあります。

また、他の様々なメディアを活用した情報提供としては、『紙パック宣言』（2009年日本評論社より刊行）を出版し、『牛乳パックン探検隊』のDVDを作成しました。その他、様々なリーフレットを作成し、関係する機関に配付などを行っています。

行動目標

インターネットなどのメディアを利用したコミュニケーションを通して、関係者が情報を共有し、共感する人を増やしていく。

行動計画

①ホームページの充実

インターネットホームページのさらなる充実を図るとともに、双方向の情報伝達ができるように努める。また、会員企業などとのリンクを充実する。イメージキャラクターとしての「牛乳パックン」の活躍の場を増やしていく。

②多様なメディアの活用

その他のメディアについてもDVDやリーフレットなどを材料に最大限の活用を図る。

③調査分析活動の推進

紙パックの環境負荷やリサイクル状況などの調査を推進し、正しい情報提供につなげる。

容環協ホームページより

5.3 紙パックリサイクルを通じた国際的連携

行動の背景

わが国の牛乳紙パックのリサイクルは市民によって始められ、社会システムに発展した世界でも例のないものです。多くの市民がボランティアでルートを作り上げ、市民の地道で主体的な行動が原動力となって、システムが構築されてきました。同時に牛乳パックのリサイクルは教育・学習的な色彩を持ち、「もったいない」、「緑の地球を子供たちへ」といった思いが込められています。

そして、「洗って、開いて、乾かして」といったひと手間をかける市民の行動によって、再生することが困難とされた牛乳パックを良質な資源に変える道が拓かれたのです。

このような日本発のリサイクルシステムを海外に拡げていくことは地球環境の保全にとって大変重要なことです。既に海外との連携活動の実績を持つ全国パック連の協力も得て、紙パックリサイクルを海外に紹介して資源の有効利用を支援し、一方日本でも海外の状況を学ぶことは国際協力の意味でも有意義と考えます。

行動目標

海外にわが国の紙パックリサイクルシステムを紹介し、海外のリサイクル団体と連携して地球環境の保全を図り、情報やノウハウなどの相互の支援活動を行うことで国際協力の一助としていく。

行動計画

①海外組織との連携

韓国紙パック資源循環協会などとの連携により、情報交換を図る。

②出前授業などのノウハウの提供

支援活動として「出前授業」などのノウハウを提供する。

③使用済み紙パックの輸出入に関する情報収集

わが国の紙パックリサイクルに関わる古紙資源の輸出入について、海外組織と協力して情報収集を図る。



日韓資源循環政策フォーラム

Ⅳ

計画の実現 に向けて

1

行動計画の性格

本行動計画は、容環協が作成したものであり、容環協が主体者です。容環協が一つの核となって計画の実現を目指します。しかし本行動計画は、様々な組織や人々の積極的な関与と行動を前提にしており、それなしに目標達成に向かうことはできません。本行動計画は、容環協の計画であると同時に、容環協以外の主体者と広く連携する社会的な計画としての性格を併せ持っています。

2

容環協の役割

容環協は、本行動計画主体としての任を負います。自らが率先して事業を展開するとともに、他の様々な主体の活動を可能な限り支援します。総合的・横断的な視点からの調整や整合を図り、計画が効率的・効果的に進展することを目指します。

3

紙パックメーカーや乳業メーカーの役割

紙パックメーカーや乳業メーカーなどは、本行動計画において、それぞれが核となる重要な役割を果たします。各事業の展開には、人的資源の活動への投入を進める中で、自ら学びレベルアップを図ることが求められています。このことは、自らの企業にとっても有益であり、そのようになる活動を目指します。

4

担い手の発掘と育成・支援

本行動計画に基づく活動が実り多いものになる一つの鍵は、それぞれの活動のリーダーになる担い手の裾野の広い獲得にあります。現在、担い手の多くは隠れたところにいます。活動への共感をもってもらえる担い手の発掘と育成につながる支援を図ります。

5

多くの関係主体の力と創意工夫

本行動計画は、紙パックメーカーや乳業メーカーだけでなく、全国パック連をはじめとする市民団体、学校や地域コミュニティ、回収業者、古紙問屋、再生紙メーカー、国や市町村といった様々な関係主体の力や創意工夫を凝らした活動、協力によって実現します。容環協は、このような活動を支援し、主体間の連携がより機能するような場を作り、社会に広げていきます。

6

ネットワークの拡充

行動計画の実現に向けて、様々な主体とのネットワークを強化していきます。各地域の牛乳協会、社団法人全国清涼飲料工業会、社団法人日本果汁協会、社団法人全国はっ酵乳酸菌飲料協会、酒類紙製容器包装リサイクル連絡会、印刷工業会、古紙関係団体などとの連携もさらに進めていきます。ネットワークは、それぞれの主体性を重視したものであると同時に、有機的なつながりを有した柔軟で強力なものにしていくことが重要と考えています。

計画の達成に向けたネットワーク

一人ひとりの市民

全国パック連
などの
市民団体

様々な
関係機関

容環協

スーパー
マーケット
などの
小売店

乳業メーカー
飲料メーカー

紙パック
メーカー

学校
地域
コミュニティ

回収業者
古紙問屋
再生紙
メーカー

国や自治体

一人ひとりの市民

一人ひとりの市民

もっと詳しく知りたい人のために

紙パックのリサイクルの現状、これまでのリサイクル活動の経緯など

全国牛乳容器環境協議会 <http://www.yokankyo.jp>

全国牛乳パックの再利用を考える連絡会 <http://www.packren.org/>

小学校中学年向け紙パックリサイクル学習サイト

牛乳パッケン探検隊 <http://www.packun.jp/>

紙パックのライフ・サイクル・アセスメント

環境省 http://www.env.go.jp/recycle/yoki/c_3_report/index.html

紙パックの歴史や特徴など

『紙パック宣言』日本評論社（2009）

●本行動計画は、国、市町村、民間事業者、市民団体などが参加した「飲料用紙パックのリサイクル促進意見交換会」や、市民アンケート調査、各種調査に関わったシンクタンクなどとの意見交換なども踏まえて、以下容環協 専門委員会できりとまとめました。（2011年3月31日現在）

■全国牛乳容器環境協議会専門委員

松井 良博 グリコ乳業(株) 経営企画部 環境専任担当 (専門委員会委員長)
山科 直利 日本紙パック(株) 取締役 CSR・環境部担当 (専門委員会副委員長)
浅岡 均 小岩井乳業(株) 取締役付環境担当兼製造部 施設技術担当 部長代理 (2010年12月まで)
伊藤 忍 雪印メグミルク(株) CSR部環境グループ 担当課長
國弘 武嗣 大日本印刷(株) 包装事業部開発本部製品開発部環境包装材開発チーム リーダー
香田 貫二 明治乳業(株) 生活環境室 室長
佐藤 和明 北越パッケージ(株) 執行役員 生産技術本部 副本部長
中原 治彦 タカナシ乳業(株) 環境対策室 室長
西嶋 寛 協同乳業(株) 生産本部 環境対策室 主管
法原 温 日本テトラパック(株) 環境本部 環境課 スペシャリスト
山本 美穂子 森永乳業(株) 広報部 CSR室 室長
横尾 耕一 凸版印刷(株) 生活環境事業本部環境ビジネス部 部長環境担当

■事務局

高松 久夫 全国牛乳容器環境協議会 常務理事
浅野 周一 全国牛乳容器環境協議会 事務局長
渡辺 孝正 (社)日本乳業協会 環境部長

プラン 2015

飲料用紙パックリサイクル行動計画

2011年4月発行

全国牛乳容器環境協議会

〒102-0073 東京都千代田区九段北1-14-19 乳業会館

TEL 03-3264-3903 FAX 03-3261-9176

<http://www.yokankyo.jp>

全国牛乳容器環境協議会



本誌は牛乳等紙パックの再生紙および古紙パルプ100%配合紙を使用しています。